

回転性のめまい、耳鳴り、難聴...

元気といこう

突然起きたら

【メニエール病】
1861年、フランスの耳鼻科医メニエールが、めまいのあった患者を解剖して内耳に出血を発見、内耳の障害でめまいが起るといふことを報告した(エニエール)。その後めまい、耳鳴り、難聴を繰り返す病気をメニエール病と呼ぶようになった。



メニエール病

メニエール病の症状



【メニエール病の進行】
▼初期—耳の閉塞感(へいそく)や音が詰まった感じやアーンという耳鳴りがあって、2、3日すると突然強いめまいが起り、めまいがおさまると、正常に戻らなくなることが続く。
▼中期—頭蓋に強いめまいが起るようになり、聴力が次第に低下する。
▼後期—めまい症状が重症化して難聴が繰り返すようになる。
▼末期—めまいのほかに自律神経失調症(じりょうじつ)や顔面蒼白、冷や汗、吐き気(吐き)など中枢神経疾患によるめまいなど、既に



ふとしたきっかけでめまいを起こす事はよくあるが、グルグル回るような激しいめまいであったり、同時に耳鳴りや難聴を伴うのであれば『メニエール病』の疑いが強い。メニエール病は進行性の病気で、そのまま放置すれば聴力が低下し、日常生活に支障をきたすようになる。病気の特徴を知り早い段階で治療をスタートさせることが大事だ。

東京都目黒区「筈井耳耳鼻咽喉科クリニック」の筈井創院長は「メニエール病は、耳の奥部分にある内耳(ないじ)が水ぶくれを起してしまつた状態。たいていは片側だけだが、もう一方の耳に起ることもある。特徴的な自覚症状は自分の体や周囲がぐるぐる回る感じがする」という強い回転性のめまい、②耳鳴り、③難聴の液が増し、水ぶくれが起り、時に吐き気を伴つてもある」と説明する。

内耳のリンパ液増加が影響も原因は不明
よつてこの蝸牛のリンパ液が増し、水ぶくれが起る。内耳のリンパ液が増すと、平衡感覚をつかさどる『三半規管(さんはんきくわん)』がはたかた(ないじ)が官がある。それにはリンパ液(細胞)が考えられるが、なんらかの理由で50歳代が中心で、子供に

「めまいは数時間から時には数週間にと続くこともあ

【筈井 創院長】筈井耳耳鼻咽喉科クリニック院長。筈井耳耳鼻咽喉科クリニック。〒152-0035 目黒区自由が丘1の29の14。Jフロントビル3F。h ttp://www.linkclub.or.jp/~entkasai



【筈井 創院長】筈井耳耳鼻咽喉科クリニック院長。筈井耳耳鼻咽喉科クリニック。〒152-0035 目黒区自由が丘1の29の14。Jフロントビル3F。h ttp://www.linkclub.or.jp/~entkasai

心身にゆとりを

ストレス、睡眠不足、過労など誘因

【メニエール病の診断基準】
①回転性のめまい発作を繰り返す。
②耳鳴りや難聴を繰り返す。症状が良くなった後、再び悪くなる。③出血性、脳腫瘍(しゅよう)など中枢神経疾患によるめまいなど、既に原因がわかってい

「長期にわたるストレス、過労、睡眠不足などがあれば、この病気の誘因となるので、日頃から心身共に余裕のある生活を送るようにする。また、めまいとともに頭痛や手足のしびれ、口がもつれる、意識がなくなる、目がかすむという症状がある場合は『脳出血』『脳梗塞』『脳腫瘍』など直接生命に関わる疾患が原因として考えられる。こういった危険なめまい、にも十分気を付ける必要がある」と同院長は注意を促す。

「めまいは数時間から時には数週間にと続くこともあ